

週刊



宿泊・旅行業・運輸・自治体 (観光全般)

日本専門新聞協会加盟紙
国土交通省交通運輸記者会所属
発行所
東京都台東区池之端2-7-17
井門池之端ビル 電話110-0008
株式会社 観光経済新聞社

日体大 理事 松浪健四郎モノ申す

地方再生・創生論

112



先日、自民党本部で大日本猟友会(佐々木洋平会長)が、大パーティーを開催した。私も招待されたので参加させていただいたが、二階俊博幹事長をはじめ、多くの大臣や官房長官等、有力議員の参加でにぎやかだった。

猟友会が毎年、自民党本部のみならず、あちこちで同じ大パーティーを開いている。農家を救うために獣害対策の普及が目的だ。動物愛護の精神

は大切である。が、田畑を荒らす動物が増えている現在、その獣害を減少させるためには国民の理解が求められる。

先般、山梨県知事に当選した長崎幸太郎氏の衆院選挙の応援に行った時の話。小菅村という山中にある小さな村で演説を

していた折、数名の聴衆しかいないのに、眼前の電線には猿が数珠つなぎ、聴衆であるかのように私の演説に耳を傾けていたのにはショックを受けた。「猿、インシン、

鹿の増加で、農作物がほとんど荒らされるのには閉口しています」と住民が泣くように語った。「愛するところ。かわい

獣害対策に有効な「わなオーナー制度」

いなんて、動物園内で語る言葉は、獣害で苦しむ人々には通用しない。全国的にインシン、鹿、ハクビシン、アライグマ、熊、猿、タヌキ等が増加し、どれだけ農家が苦しめられているか、私たちの理解は不足している。で、大日本猟友会

のパーティーでは、インシン肉やシビエと呼ばれる鹿肉を使った料理が提供される。美味である。欧州、特にフランスではシビエは高級料理である。また、牛肉や豚肉よりもシビエの方がアスリートには栄養価の高いデータがある。私の日体大にも各自

の狩猟免許を取得する人が増加しているという。狩猟による狩りの場の設置に一般住民が出資する。神奈川、小田原市では「わなオーナー制度」の実証実験が始まっている。多くの「わな」を設置することができる。出資金によって書額を減少させることができる。拡大すれば農作物の被害を減少させることができる。

「わなオーナー制度」は、有効なアイデアであるが、この制度を誰が音頭をとって主宰するかが問題である。小田原市の場合、市と住民、慶応大が連携して実施することができた。私は、自治体

が中心となってこのオーナー制度を作り、農作物を守るべきだと思う。何もしない自治体が多すぎるのは、なぜなのだろうか。

商品を提供を安定させたい。特別メニューで終わってしまう。日体大の学食は大きく悲劇、自然の中で生きる鹿の生命の執念に、ちよびり同情させられた。鹿の生命の執念に、ちよびり同情させられた。鹿の生命の執念に、ちよびり同情させられた。

経営